

2015 年度第 4 回 日本学連幹事会 資料

開催日時：2016 年（平成 28 年）3 月 10 日（木）及び 13 日（日）

開催会場：ホテルファミテック 会議室（栃木県日光市）（10 日）

ホテルニュー塩原 会議室（栃木県那須塩原市）（13 日）

1. 個人情報について（報告）	
2. インカレロング女子選手権競技者数について	
3. 後援大会実施報告書について	[資料 1]
4. 目安箱について	
5. トレイルランニング世界学生選手権について	
6. 会計中間報告	[資料 2]
7. 来年度予算案	[資料 3]
8. 地図会計について	[資料 4]
9. 新機軸事業について	
10. 事務局移転関連	
11. 後援申請報告	
12. 各部局活動報告	
13. 地区学連活動報告	
14. 次期幹事会について	
15. 追加議題	[資料 5]

平成 年 月 日

事業完了報告書

日本学生オリエンテーリング連盟
幹事長

主催団体 団体名：
住所：
代表者：

平成 年 月 日付文書にて承認のありました事業が完了いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

項目	オリエンテーリング大会の開催
行事名	
日時	
開催地/地図名	
主催	
後援	
協賛	
開催状況(参加者数等)	
特記事項	

以上

注)後援に関する規定第 7 条に基づく請求を行う場合、別添資料を作成すること。

添付資料：参加賛助会員名簿、希望振込先情報、担当者連絡

2015年度第2回会計中間報告(2016年3月10日時点)

2015年度日本学連会計 大久保 宗典

2016/3/10

単位: ¥

収入項目	単価	数量		予算
加盟金				
個人(単価2000円)	2,000		2,487,400	2,400,000
加盟校(単価4000円)	4,000	33	132,000	128,000
準加盟校(単価1000円)	1,000	17	17,000	19,000
賛助金				
2015年度賛助金			54,000	100,000
事業収入				
2014年度ICM&R貸付金			1,500,000	1,500,000
2014年度ICM&R黒字返金			1,359,195	500,000
2015年度ICS&L貸付金			500,000	
地図関係				
地図収入(※1)			※※※	
その他				
関東学連から家賃として			50,000	50,000
利息			1,109	1,000
	小計		6,100,704	5,398,000

※1. 地図収入については年度末に確定するので現時点では不明

※2. 予算としては計上していなかったが、実行委員会側から要望があったため運営資金として50万円を貸し付けた。

※3. ユニバーは2年に1度であり、2年に1度

まとめて30万円を支出するが、計算上は1年に15万円を予算として計上することとなる。

※4. 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。

ただし、発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。

※5. 家賃は12か月分+更新料1月分の合計13か月分

※6. 地図収入と同様

単位: ¥

支出項目		金額	予算
インカレ貸付金			
2015年度ICS&L貸付金(※2)		500,000	
2015年度ICM&R貸付金		1,500,000	1,500,000
部局活動費			
広報部		0	10,000
事業部		0	200,000
事務局		30,000	50,000
普及部		0	10,000
理事会		0	100,000
渉外部	渉外部長向け	14,195	
	山川さん向け	0	100,000
技術委員会関係			
技術委員会	技術委員会昨年度未清算分	0	60,000
インカレアドバイザー派遣		0	160,000
学連合宿補助(3万円×4)		0	120,000
講習会補助(1万円×3)		0	30,000
ユニバー補助(※3)	オフィシャル補助など	0	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※4)	0	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	932,690	650,000
	幹事会宿泊費	326,400	450,000
総会	幹事会会場使用料	7,830	50,000
役員活動費	資料印刷代	0	50,000
	その他(モデム郵送費)	620	
事務局維持費			
事務局維持費	家賃(※5)(単価50000円)	650,000	650,000
	光熱費	8,644	35,000
	電話代	43,380	55,000
地図関係			
地図作成費(※6)		※※※	
地図修正費(※6)		※※※	
その他支出			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金	3,000	0
地区学連への賛助金フィードバック		21,000	20,000
ファミテックのインカレ広告費		20,000	20,000
手数料		2,808	6,000
予備費		0	572,000
	小計	4,160,567	5,398,000

2016年度日本学連会計予算案

2015年度日本学連会計 大久保 宗典

2016/3/10

単位: ¥

収入項目	単価	数量	予算額
加盟金			
個人	2,000	1,250	2,500,000
加盟校	4,000	35	140,000
準加盟校	1,000	14	14,000
賛助金			
賛助金			90,000
地図収入			
地図収入(※1)			※※※
事業収入			
2014年度ICM&R貸付金			1,500,000
2014年度ICM&R黒字返金			900,000
その他			
関東学連から家賃として			50,000
利息			1,000
小計			5,195,000

※1. 地図収入については年度が変わって実際に地図を売ってからでないかわからないため予算案時点では不明とする。

※2. 渉外部については来年度は山川さんの渉外費用を含めない。ただし、矢板ロングがあることを考慮してほしいとの渉外部長からの要望を踏まえ、山川さん分抜きで10万円を計上しておく。

※3. ユニバー補助は2年で30万なので単年で15万とする

※4. 幹事会関係の費用は今年度の実績を鑑みて増額している。第3回幹事会から新幹事を参加させるという近年の傾向からして交通費は多めに確保しておくべきであるとの判断による。

※5. 家賃は山川さんや河合会長からの提案により年間120万円とする。ただし、今年度までと異なり更新費は不要となる。

事務局光熱費は山川さんから0で良いと言っていたので0。

電話代についてはソフトバンクとの契約を解除したため、来年度は0とする。

※6. 地図収入と同様。

単位: ¥

支出項目	単価	数量	予算額	
インカレ貸付金				
2015年度ICM&R貸付金			1,500,000	
部局活動費				
広報部			10,000	
事業部			150,000	
事務局			50,000	
普及部			10,000	
理事会			100,000	
渉外部(※2)			100,000	
技術委員会関係				
技術委員会			50,000	
ユニバー補助(※3)	オフィシャル補助など		150,000	
幹事会関係				
印刷費	活動報告書作成費		250,000	
幹事役員活動費(※4)	幹事会交通費		1,050,000	
	幹事会宿泊費		500,000	
	総会		50,000	
	役員活動費		50,000	
事務局管理費				
事務局管理費(※5)	家賃	100,000	12	1,200,000
	光熱費			0
	電話代			0
地図作成費				
地図作成費(※6)				※※※
その他支出				
JOA関係費用	年会費			100,000
	保険金			3,000
インカレ広告費	ファミテック広告料			20,000
地区学連への賛助金フィードバック				25,000
手数料				5,000
予備費				0
小計				5,373,000

総会開催後も年度内案件2件あり、それを入れ込んだ年度最終報告(4/19報告)

赤色部分総会後追記 報告者: 指定管理者: YMOE社 山川

ここ数年の年毎の推移	春IC開催地	
2009年度	日光例幣使街道	2328枚
2010年度	椈の湖	2767枚
2011年度	希望が丘	3542枚
2012年度	日光所野	8521枚
2013年度	矢板日新	11794枚
2014年度	作手高原	7986枚
最大値やや更新!	2015年度	塩谷熊ノ木
		12626枚

実施日	テレイン名	団体名	YMOE 伝票番号	枚数	備考	備考2
4月18日	日光愛宕山	慶応大	栃2015-13	32		
4月25日~26日	日光例幣使街道	慶応大	栃2015-14	76		
4月25日	日光例幣使街道	筑波大学	栃2015-15	57		
4月25日~26日	日光例幣使街道	早稲田大学	栃2015-16	58		
5月3日	椈の湖	名古屋大学	地印2015-5	174		
5月31日	日光愛宕山	千葉大学	栃2015-17	41		
6月13日	矢板日新	筑波大学	栃2015-18	33		
6月8日	日光例幣使街道	東京工業大学	栃2015-19	30		
6月14日	日光愛宕山	東京大学	栃2015-20	152		
6月13日	日光例幣使街道	千葉大学	栃2015-21	32		
6月13日	日光愛宕山	筑波大学	栃2015-22	53		
6月21日	日光口	関東学連	栃2015-23	336		
6月21日	日光和泉	関東学連	栃2015-23	279		
7月19日~20日	日光口	茨城大学	栃2015-24	6		
	日光和泉	茨城大学	栃2015-24	4		
	日光例幣使街道	茨城大学	栃2015-24	85		
	日光所野	茨城大学	栃2015-24	50		
7月11日	日光和泉	戸上	栃2015-25	24		
8月3日	毘沙門山	東京大学	栃2015-26	175		
8月7日	日光愛宕山	早稲田大学	栃2015-27	51		
8月23日~25日	矢板日新	2013同期	栃2015-28	62		
	矢板幸岡	2013同期	栃2015-28	90		
	番匠峰古墳	2013同期	栃2015-28	63		
	矢板運動公園	2013同期	栃2015-28		44	スプリント地図
9月6日	矢板山田	茨城大学	栃2015-29	33		
9月9日	日光例幣使街道	関東新人戦	栃2015-30	326		
9月13日	不動の滝(南)	千葉大学	栃2015-31	52		
9月19日~21日	日光和泉	東京農工大学	栃2015-32	22		
	不動の滝(南)	東京農工大学	栃2015-32	45		
	日光例幣使街道	東京農工大学	栃2015-32	22		
9月27日	日光和泉	東京大学	栃2015-33	163		
	日光口	東京大学	栃2015-33	42		
10月11日~12日	矢板幸岡	名古屋大学	栃2015-34	19		
	番匠峰古墳	名古屋大学	栃2015-34	54		
10月11日	矢板日新	茨城大学	栃2015-35	64		
11月14日~15日	矢板山田	新潟大学	栃2015-36	33		
	矢板日新	新潟大学	栃2015-36	37		
11月21日	日光愛宕山	千葉大学	栃2015-37	48		
11月22日	毘沙門山	東京工業大学	栃2015-38	56		
11月28日	矢板山苗代	立川洋さん追悼	栃2015-39	129		
11月28日	矢板日新	留年練習会	栃2015-40	217		
	矢板山田	留年練習会	栃2015-40	113		
12月5日	矢板山苗代	東京工業大学	栃2015-42	72		
12月6日	矢板山苗代	茨城大学	栃2015-43	69		
資料	番匠峰古墳	茨城大学	栃2015-43	4		
12月6日	矢板日新	KOLC	栃2015-44	78		
12月13日	矢板山苗代	千葉大学	栃2015-45	40		
12月13日	椈の湖	名古屋大学	地印2015-11	115		
12月12日~13日	矢板山田	筑波大学	栃2015-46	46		
	矢板幸岡	筑波大学	栃2015-46	48		
12月20日	番匠峰古墳	三地区合同セレ	栃2015-47	629		
12月26日~27日	矢板日新	千葉大学	栃2015-48	72		
12月26日~28日	日光所野	KOLC	栃2015-49	82		
	不動の滝(南)	KOLC	栃2015-49	95		
	日光例幣使街道	KOLC	栃2015-49	100		
12月25日~27日	日光和泉	東京工業大学	栃2015-50	72		
	日光所野	東京工業大学	栃2015-50	98		
	不動の滝(南)	東京工業大学	栃2015-50	59		
12月28日~30日	日光愛宕山	トータス	栃2015-51	158		
12月14日	日光和泉	トータス	栃2015-51	210		

12月14日	日光例幣使街道	トータス	栃2015-51	90		
1月10日	日光所野	千葉大学	栃2016-1	41		
1月9日～10日	矢板日新	京都大学	栃2016-2	69		
	矢板山苗代	京都大学	栃2016-2	50		
1月17日	日光例幣使街道	千葉大学	栃2016-3	20		
1月15日～17日	矢板山苗代	新潟大学	栃2016-4	149		
	矢板日新	新潟大学	栃2016-4	281		
1月16日～17日	矢板日新	東京大学	栃2016-5	345		
	番匠峰古墳	東京大学	栃2016-5	305		
1月17日	日光所野	筑波大学	栃2016-6	23		
1月24日	矢板山田	東京大学	栃2016-7	167		
1月30日～31日	不動の滝(南)	筑波大学	栃2016-8	45		
	矢板山田	筑波大学	栃2016-8	33		
2月6日	日光例幣使街道	2014同期合宿	栃2016-9	127		
2月12日	矢板日新	織田合宿	栃2016-10	59		
2月13日	矢板幸岡	織田合宿	栃2016-10	48		
2月6日	矢板日新	学連合宿			321	印刷費のみ
2月7日	塩谷田所	山リハ	自社事業	408		
2月13～14日	矢板幸岡	岩手大学	栃2016-11	352		
2月20日	矢板山苗代	KOLC	栃2016-12	80		
2月21日	矢板日新	KOLC	栃2016-12	144		
2月22日	不動の滝(北)	KOLC	栃2016-12	127		
2月20日	日光和泉	新潟大学	栃2016-13	31		
2月21日～22日	矢板山苗代	新潟大学	栃2016-13	102		
2月27日	矢板日新	東北大学	栃2016-14	105		
2月28日	矢板幸岡	東北大学	栃2016-14	79		
2月24日	日光例幣使街道	千葉大学	栃2016-15	30		
2月25日	日光和泉	千葉大学	栃2016-15	36		
2月26日	矢板幸岡	千葉大学	栃2016-15	53		
2月27日	番匠峰古墳	千葉大学	栃2016-15	53		
2月19日	番匠峰古墳	筑波大学	栃2016-16	51		
2月20日	矢板日新	筑波大学	栃2016-16	35		
2月21日	塩谷田所	筑波大学	栃2016-16	32		
2月27日	矢板山田	金沢大学	栃2016-17	129		
2月28日～29日	矢板日新	金沢大学	栃2016-17	191		
2月26日	日光例幣使街道	東京大学	栃2016-18	289		
2月27日	矢板山苗代	東京大学	栃2016-18	176		
2月28日	日光所野	東京大学	栃2016-18	235		
2月28日	毘沙門山	筑波大学	栃2016-19	38		
2月25日	番匠峰古墳	早稲田大学	栃2016-20	57		
2月26日	矢板日新	早稲田大学	栃2016-20	128		
2月27日	塩谷田所	早稲田大学	栃2016-20	117		
2月28日	番匠峰古墳	東京工業大学	栃2016-21	80		
2月28日	日光和泉	東京農工大学	栃2016-22	19		
2月29日	日光例幣使街道	東京農工大学	栃2016-22	31		
3月1日	不動の滝(南)	東京農工大学	栃2016-22	16		
3月5日	矢板幸岡	茨城大学	栃2016-23	47		
3月5日	矢板山田	名古屋大学	栃2016-24	45		
3月6日	矢板日新	名古屋大学	栃2016-24	30		
3月5日	矢板山苗代	JOA強化委員会	栃2016-25	47		
3月5日	塩谷田所	JOA強化委員会	栃2016-25	10		
3月6日	矢板日新	JOA強化委員会	栃2016-25	26		
3月6日	矢板幸岡	筑波大学	栃2016-26	25		
3月6日	矢板幸岡	千葉大学	栃2016-27	37		
3月6日	毘沙門山	KOLC	栃2016-28	76		
3月7日	番匠峰古墳	北海道大学	栃2016-29	31		
3月8日	矢板山田	北海道大学	栃2016-29	115		
3月9日	矢板日新	北海道大学	栃2016-29	87		
3月10日	矢板山苗代	北海道大学	栃2016-29	43		
3月14日	塩谷熊ノ木	学連講習会	栃2016-29		110	相当値:印刷費はグロス
3月15日	日光例幣使街道	学連講習会	栃2016-29		140	相当値:印刷費はグロス
3月24日	不動の滝(南)	筑波大学	栃2016-30	51		
3月22日	毘沙門山	Go! Camp	栃2016-31	14		
3月23日	矢板山苗代	Go! Camp	栃2016-31	15		
3月25日	不動の滝(南)	Go! Camp	栃2016-31	42		
3月26日	塩谷熊ノ木	Go! Camp&山川Dream	栃2016-31	41		山川Dreamのみは7枚
3月27日	塩谷田所	Go! Camp&山川Dream	栃2016-31	30		山川Dreamのみは9枚
3月28日	矢板日新	Go! Camp	栃2016-31	14		

11387 枚

12002

【初出企画使用分】

11月29日	塩谷田所(KOLC大会)	栃2015-41				
	初出分			548		
	販売分			76		

624 枚
初出分 548
販売対象分 76

指定管理業者による学連地図の供給総数	12626 枚	
学連内部使用分	571 枚	
指定管理業者への印刷代支払い を除いた学連の収入額として単価 200円のもの地図売上	11463 枚	¥2,292,600
150円のもの地図売上	44 枚	¥ 6,600
初出地図分(学連分550円)の地	548 枚	¥ 301,400
学連地図の総使用枚数 (春インカレの現場を除く)	12055 枚	
2015年度日本学連地図売上総額(確定値)	a	¥2,600,600

【説明】実績の良い(それは=栃木でのインカレ開催)の2013年と2015年度で評価の視点を言えば、新機軸事業の数の違いによる初出分の違い、結局数値上は、2015年度の方が2013年度より、日光矢板で練習実績が多かったということになる。

2014年度YMOE代行分の地図売上(新機軸事業/矢板山苗代) ¥1,693,500
2013年度YMOE代行分の地図売上(新機軸事業/毘沙門山と矢板山田) ¥2,575,800

2013年度と2015年度は最終的な総額ではほぼ同じとなっているが、2013年度は新機軸事業が2件あることと、供給側の実情として、皆よく練習するようになり、複数メニュー地図(その拡大解釈の半サイズ地図)を多用するようになったことも上げられる。地図供給量としては2013年度よりさらに増えた、というのが実情

【地図会計関連のYMOE社との会計やりとり2015年度分】

他日光トレイン維持改訂作業	関東ロングセ 関東新人戦(中止)	2015年6月担当理事に提出	別途報告	¥ 200,000
矢板トレイン維持改訂作業	三地区合同ミドルセ	2015年12月再発議(メールベース)	別途報告	¥ 200,000
塩谷田所新規地図作成事業	KOLC大会 残業あり	2015年9月幹事会で決議	別途報告	¥ 1,600,000
インカレスプリント新規持ち回りカット	第1回立ち上げ			¥ 69,120

2015年分YMOE社より日本学連会計に納金する最終精算額 b ¥2,069,120

a-b ¥ 531,480

【2016年度】2015年度でのやりとりを背景に、多分20万以内の案件を都度担当理事に提示するで、解決できると踏んでいるトレイン整備作業は、絶対に必要なことなので、新地図規約ののっとり、今度は幹事長・会計・担当理事と協議の上、学連にとって良い様に、2016年度も進めていきたいと思ひます。
また、新機軸事業についてですが、粉をかけている団体はありますが、3/14総会時点で学連に正式に申請しようという団体は現れていません。しかし申請の提案がいつきても良いように、先行投資的部分(基礎調査と正確な見積り算定)をどんどん先回りで進めていきたいと思ひます。

【新地図会計規定に則り、提示予定事業】

- | | |
|--|----------------------------|
| 1. 新機軸事業第5弾(栃木県矢板市内)4/19現在まだ申し出団体はありません。 | 予算規模 |
| 2. 日光トレイン維持改訂事業(セレクションに対応して地図担当理事に事前に申請) | 140万~160万 |
| 3. 矢板トレイン維持管理事業(セレクションに対応して事前に地図担当理事に申請) | 20万円(最大値) |
| 4. 「矢板塩田」大幅経年修正作業(2016年度秋インカレに対応) | 20万円(最大値) |
| 5. インカレスプリント地図作成(多分、著作権は栃木県協会に持っていただく予定) | インカレロング予算で
インカレスプリント予算で |

<別資料>

事務局(目白台芙蓉ハイツ104)の学連資材を長く風呂場に置いたことによるリフォーム代報告

給湯器交換	105000
風呂場掃除(ダスキンに外注)	25920
浴室電気系統修理と照明交換	8280
空気清浄機	11300
	150500

対象外として除湿機・加湿器

家賃返却分(15万円)と相殺で、当初支出額からの変更無し

【上記トレイン別使用枚数統計】

矢板日新	2398
日光例幣使街道	1513

番匠峰古墳	1327
日光和泉・日光口	1244
塩谷田所	1232
矢板山苗代	972
不動の滝(南)・日光愛宕山	940
矢板幸岡	798
矢板山田	714
日光所野	529
毘沙門山	359
椈の湖	289
塩谷熊ノ木	151
不動の滝(北)	127
矢板運動公園	44

JSSOM

【もうひとつお知らせ】

担当理事(海老氏)とも、すでに細かな調整に入っていますが、これだけ日光矢板地区に使用できるテレインが増えて、十分に練習環境は整ったといえますので、将来の再利用のことも頭にいれないといけません。先日の幹事会で、次の関西開催の春インカレのことについて、2年前時よりの前倒しの準備活動に関する予算執行措置なども話し合われましたが、関東開催の春インカレについても、なるべく先回りのリサーチを行っていかないと、開催地がないという事態は十分に考えられます。ヤマカワハウスができたという好条件もありまして、今回の塩谷インカレが無事終了し、この4～5月で更なるリサーチ活動を行っていきますが、一応、日光地区のテレイン「不動の滝(南)」(「日光愛宕山」部分を含む)を将来のインカレの為にクローズ予定で考えていることをお知らせしておきます。(ロングセレの候補地にも上がっているということもすでに質問を受けていますが、決まった場合は「日光愛宕山」部分のセレ使用を回避していただくこととなります。)

以上総会時コメント、すでに「不動の滝(南)および日光愛宕山」はクローズ前提で世の中は動いていますが、来月(5月)テレインコントロールに関しさらに新しいコメント出します。

<2016 年日学総会資料>

日本学生オリエンテーリング連盟(以下学連もしくは日本学連)の事務局(所在地)関係のネクストプラン

説明者：日本学連副会長(今までの事務局大家) 山川克則

結論から先に **学連の下支えの構造を、山川“個人”から YMOE“社”に全移管する**

2015 年度まで

1. 事務局維持費として、家賃月 5 万円(更新料 1 ヶ月分+)と関係する光熱費通信費を学連会計で支弁していた。それには、膨大な学連資材(主にインカレ資材)の倉庫代等も込みの値段であった。
2. 必要な資材運搬などは曖昧で、本人がスタッフの場合はそこにつけるとか、近距離の場合はただで運ぶ場合も実は多かった。
3. 渉外に関しても、数字に現れる部分のみを渉外部の会計で請求、しかし地元に住んでいると、メリットも大きい、いつなんどき呼び出されるか判らないほど、臨機応変の対応が求められる。(ここ数ヶ月の例を口述)
 - ※ 資材に関しては、40 年の積み重ねがあり、とても 1 箇所では管理しきれない状態にはなっておらず、山川の自宅・別宅・借りている倉庫(これ解約済)・東京の事務局・岐阜県大垣市の実家などに分散して、きちんと管理されているとは決して言えないレベルで雑多に置かれていた。しかも数字で現せないものは一切請求していない。

これを改変する 2015 年度中の一番の大きなきっかけは、長年の自分のオリエンテーリング事業の集大成として夢であった「ヤマカワハウス」(7DK+別棟として 45 m²の大型倉庫)を、何度もインカレを開催する地で持つことができたこと。

2016 年会計年度より、

一番の大きな変化は、山川個人での下支えから 100%脱し、YMOE社の社業(社長命令、もしくは遺言)として、学連の下支え作業を行うこと。備品の類も上記の場所から 2016 年度中にすべて「ヤマカワハウス」に集結し、きちりとしてデータベースを構築、一元管理を達成する。「事務局維持費」を「事務局関係費」(仮称)として、包括的な年棒制にする(YMOE 社的に言えば、2016 年度からは会社の正式な売上げになる。今までは個人資産の中での対応)。その覚書を交わす。その内容は、

1. 学連の資材管理と必要などころに必要なものを届けるその費用を含む(基本本州内、それ以外は当該プロジェクトと別途相談)、資材管理には、データベース構築、整理棚の大量購入整備などを含む
2. 学連の所在地の提供と必要郵送物の回送(詳細は別途議論、学連の所在地として公示する場所)
〒329-2441 栃木県塩谷郡塩谷町船生 6082-68 山川克則記念館内
3. 地元渉外活動のすべて、企画立案的な予備折衝作業から日々の細かなまでの地元対応、およびテレインの経年変化等に関する加盟員からの申告をうけた場合の、改変調査の必要性のリサーチ

- <説明> a. 今までのように光熱費関係を別途計上する必要はない。そもそも実態的に紙ベースの頃の事務局運営とは違う。すべて年棒の中で対応する。光熱費は実態に合わせて、ヤマカワハウスで合宿する人から徴収すればよい
- b. 今まで、日本学連←→関東学連間で事務局関係でやりとりされていたことに関しては、YMOE社としては、特に言及はないので、当該同士で新しい実情に合わせて決めてほしい。もちろん関東学連所属の資材に関しては、そのようにカテゴリ別けて管理します。

年棒案 120 万円<月あたり 10 万円> 更新料、契約金の類の初期費用なし。あと付帯義務事項として、渉外と資材に関して全ての動き(費用も人的対応も)を記録し、それを学連組織内部のしかるべき場所で公開する。(エクセルファイルによる日記およびデータベース形式) まずはこの 1 年、その後見直し

<説明> 上記の説明のように、今まで 40 年間の蓄積は個人の厚意とか思い入れとか愛情とかで可能たらしむるものであったことは否めなく数字で評価することが非常に難しい。もし山川以外の者が会社命令だとしても、いくらなら学連の下支え作業としてこの業務を引き受けてくれるかと考えたとき、月 5 万円で引き受けるには重すぎると考えた。1 年これでやってみて、上記で義務が明記されている日々の活動記録を元に、妥当性について改めて理事会にて検討したい。

前の幹事会で説明したように、日本学連は 40 年以上、これだけの価値観、これだけの規模(人的にも会計的にも)で継続でき

ている組織であるにしても、組織形態は「任意団体」である。〇〇県協会の所在地や事務局が、誰々さんちにある(それは全く個人の厚意)のと全く変わらない。〇〇県協会は、その誰々さんが死んだら、次どうしようとまた個人の厚意に頼って再考するのだろうが、日本学連は最早それで回る組織ではない。こと人格(法人格)という観点では、任意団体は、個人という人格にさえ及ばないのである。この問題を解決する方法として、以下を決済することを理事会は了承し、早急に「覚書」を日本学連会長とYMOE社と間で交わす。

【決議事項】

1. 日本学生オリエンテーリング連盟の所在地を、栃木県塩谷郡塩谷町船生 6082-68 に移転する。
2. 事務局関係費として、2016 年度当面 1 年は金 120 万円を YMOE 社に支出する。(以降見直す)

<説明>これで、不治の持病がある山川が、いつ動けなく事態が起こったとしても、日本学連の財産<モノも人の関係も>は、個人ベースから会社ベースに変わり、今の業務を引き継げる人が現れればよい構造は作った。また、それに際しての起業リスクも今は最小限であるといえるようにまですた。別途定める地図規約、指定管理契約との三点セットで、日本学連の屋台骨を担う動きは今後円滑に回るものだと考えている。

<関係参考資料> 詳しい記述は活動報告書にあります

- 1979 年 3 月 最初のインカレを関東学連主催、そのOB組織である新日本 OLC 主管にて八王子市で開催<読売新聞後援> 翌年の第 2 回は、まだ学連はなく、日本学生 OL クラブ連絡協議会の主催、主管は同様新日本 OLC。埼玉県滑川村で開催 <読売新聞後援>
- 1981 年 3 月 日本学生 OL クラブ連絡協議会という脆弱な組織が早速新聞社の後援問題を機に崩れ、インカレが開催危機に、日本学生 OL クラブ連絡協議会の座長であった関東学連の委員長<当時の呼称>が山川の同期であり、その立往生ぶりにあまり真面目な部員でなかった山川が助け舟を出してしまった(出さざるを得なかった)ことをきっかけにズルズルとこの道に、(ということで山川は現役の 2 年生の時からずっと 37 年勤続で裏方) 山川の学業は一流へ、このときのインカレ実行委員長も院留した。
- 1981 年度より、日本学生 OL クラブ連絡協議会はインカレを主催するとして、学生の自治全国組織結成に着手、事務局は山川の世田谷の下宿アパート。現役学生がOBを集める形で、今のインカレ実行委員会の原型みたいのが動き出した。千葉県木更津市で無事開催、山川二流へ、でもって、この形式で富士、関西と続けて開催、山川は三留は何とか脱し、本郷に進学。事務局も本郷の山川の下宿アパートへ。
- 1985 年 3 月 第 7 回となるに日光インカレにて(山川 6 年生時)、個人・リレーの 2 日間形式と、日本学連の正式発足を達成する。山川の学業成績は最低線ながらも何とか、就職はしないで(いくつか受けたが全部落ちた)そのまま学連の活動を軌道に乗せる活動に従事。事務局はお茶大裏の護国寺に住居込みで移転。事務局員が事務作業(まだまだすべて紙ベースの時代)に通う形はこの頃から(本郷時代までは、個人的パワーほぼで全てやっていた) 勿論、その頃の学連仕事は全てボランティアベースであったので、自らの仕事として食うためにプロマッパーを始める(決して最初から調査がうまかった訳ではない)
- 1987 年 4 月 結婚して、新居を千葉県市川市行徳に構えると同時に、事務局は高田馬場の貸しビルの一室を借りて稼動するようになった。住と職が分離し家賃や光熱費はここから発生するようになった。
- 1990 年代半ば バブルが崩壊し不動産の相場が大幅に下がり山川個人が文京区関口に事務局用のマンションを買うことになり事務局を今の場所に移転、バブルの名残があった時は周辺家賃にあわせて、最高月 12 万円の家賃をいただいていた。(今の周辺相場は 8 万円です。また途中家賃 10 万時代も 8 万時代もありました)
- 2002 年 1 月 山川の仕事が、会社法人化(ジェネシスマッピング社)した。会社事務所(江戸川橋)と学連事務局が同居という時代もあったが、この辺は省略

以来 40 年以上実績を重ねるうちに、色々なものがカオスの如く、プライベートスペースにまで侵攻し今に至る。また、東京の事務局は、事務作業のIT化がなされた後は古い資材だけが地価の高いあの場所に居座り続け、個人資産であるマンションは傷むばかりで、資産価値は下がるばかりであった。そんな状態をいっぺんに解決できる大事件が、ヤマカワハウスを購入であったわけである。もう少し金をためてからとと思っていたところ、地元の知人から声が掛かり、エイヤで 900 万円キャッシュで用意し(その後の設備投資にも約 100 万円投資した)長年の夢を叶えた。実際、開設してみて、その運用実績は別途地図会計報告にあるように(金・人・地図)は想定を上回る好調ぶりである。

というわけで、一時は(貸借対応表による評価)ゴミくず同然だった旧ジェネシスマッピング社から建て直し、十分に優良企業としての指標を現在もつに至っている。しかも、これは数字の上での評価で、地図を含み資産と考えれば(地図は学連の資産だが)、さらに資産価値は上向きの評価を頂けるであろう。今後大きなリスクを背負うことなく、次の担い手に引き継げることを目標としている。

今これだけの人的及び財政的規模をもつ日本学連を支える基盤が、特定個人の厚意によるというのは、将来の持続可能性を議論する場合、きわめて脆弱なものであるといわざるを得ない。少なくとも、組織を支える基盤構造に関しては、正当な対価でそれを評価することは、今後必要なことだと考える。正当性の判断については理事会でも随時検討してゆき、幹事会・総会で学生の生の意見にも耳を傾け、必要な質疑応答(説明の機会)を今後も行っていく所存である。

以上